取材のご案内

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
九州センター（JICA 九州）
2025 年 4 月 18 日

JICA 海外協力隊　第 3 回社会還元表彰

九州地方から2名が入賞

7月14日（月）、独立行政法人国際協力機構（JICA）本部（東京都千代田区）にて、JICA海外協力隊　第3回社会還元表彰式が開催されます。九州地方からは、福岡県出身の庄田　清人氏が地域活性化賞、大分県出身の山路　建造氏が審査員特別賞（災害支援）を受賞しました。

■JICA 海外協力隊帰国隊員社会還元表彰とは

JICA では JICA 海外協力隊の事業目的の一つである「ボランティア経験の社会還元」事例を収集し好事例として紹介することで、協力隊経験者の社会還元の機運を高めると共に、より良い社会の実現を目指しています。このため、JICA 海外協力隊経験者で、国内外・公私問わず社会課題の解決に取り組んでいる方を表彰する『帰国隊員社会還元表彰』を 2023 年より開始しました。

JICA 海外協力隊経験者で国内海外、公私を問わず社会課題の解決に取り組んでいる方、企業・組織での業務、起業、個人・ボランティアでの活動等、すべての取り組みを対象とし、自薦、他薦を問わず応募者を募りました。応募を期待する事例としては以下のようなものをあげております。

- 自ら企画する製品、サービス及びビジネスモデル等で社会課題の解決に取り組んでいる
- 開発途上国の経済社会の発展又は復興に引き続き取り組んでいる
- 地域経済の活性化や地域課題の解決に取り組んでいる
- 居住地の在留外国人や職場内の外国人労働者の受入支援に取り組んでいる
- JICA海外協力隊の派遣国と日本の架け橋になるような事業又は教育活動に取り組んでいる

JICA 海外協力隊発足 60 周年の記念事業として、第 3 回社会還元表彰ではより幅広い活動を対象とできるよう、応募対象者をこれまでの帰国後 10 年から帰国後 20 年までに広げると共に、審査員特別賞を創設しました。

今回の応募者のなかから、計 7 名が各賞の入賞者として選ばれ、その中で九州地方からは以下 2 名（福岡県出身の庄田　清人氏、大分県出身の山路　建造氏）が受賞しました。

7月14日（月）にJICA本部（東京都千代田区）にて開催予定の第3回社会還元表彰式においては入賞者が一堂に会し、それぞれの活動についてプレゼンテーションを実施し、審査員により大賞が決定される予定です。

取材のご案内

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
九州センター（JICA 九州）
2025 年 4 月 18 日

●地域活性化賞	
氏名	庄田　清人（2014 年度 2 次隊、マラウイ、コミュニティ開発）
取組名称	コミュニティ財団による地域の社会課題解決の仕組みづくり
活動概要	2020 年 10 月にちくご川コミュニティ財団が休眠預金活用事業の資金分配団体に選定されたことにより、事業の企画・運営・管理を行うプログラムオフィサー（以下、PO）として同年 11 月に財団に入職。2021 年より理事/事業部長に就任し、財団独自の助成プログラムである「子ども若者応援助成」、「水害に対する災害支援助成」、「子どもの多様な学びの場を保障する基金による奨学金事業」、そして、休眠預金活用事業（2020 年度通常枠、2021 年度通常枠、2023 年度通常枠・随時枠、合計 4 事業）の事業統括をしている。 協力隊派遣中はコミュニティ開発隊員として、PCM を活用しながら地域住民とのパートナーシップのもと保健医療活動、スポーツを通した地域づくり活動を実施していた。その経験をもとに、財団の事業においても地域住民や NPO 等に伴走型の支援で関わり、住民参加型のワークショップの実施、関係者分析、問題分析、目的分析等をしながら、地域の社会課題を決するための包括的なプログラムの企画・運営・管理を行なっている。 関連リンク:https://c-comfund.com/
●審査員特別賞（災害支援）	
氏名	山路　健造（2014 年度 2 次隊、フィリピン、コミュニティ開発）
取組名称	能登半島地震・奥能登豪雨で被災した外国人住民の居場所づくり
活動概要	輪島市では、地震前に比較し外国人住民が約半分、98 人まで減った。能登地域の人口減が進む中、若い外国人材の果たす役割は大きく、彼らが安心して生活できるインフラを整えるための活動を、中心になってコーディネート。 地震直後は多文化人材の活躍の場や居場所づくりの目的で近隣県の外国人や、ウクライナ避難民による「多文化炊き出し」を実施し、被災した皆さんに提供したり、輪島市内の外国人住民に食材を提供し、炊き出しを行ってもらう事業等を実施。 また奥能登豪雨以降は緊急支援として外国人住民の戸別訪問や、土砂崩れで孤立した地域、停電や断水が発生した世帯への物資支援などアウトリーチを行った。さらに外国人住民へ災害時の情報源や平時・災害時それぞれでほしい情報、困ったときの相談相手などを尋ねるアンケートをやさしい日本語、英語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、中国語で作成。輪島市内の外国人住民 88 人に送付し、ほぼ半数の 43 人から回答を得られた。このアンケートをもとに、彼らのニーズに合わせた支援（住宅の修復、冬用衣服の支援等）を実施した。そのほか地震や平時も含めて、「同じ国出身の友人・知人」に相談するという例が多く、「母語で情報を求めている」と分析。アンケートで Facebook 利用者が最も多かったことから、「のと多言語サポート」というページも作成し、情報発信を行っているほか、出身国ごとの料理イベントなどを開き、その参加者で SNS グループを作成し、生活情報の提供も行っている。今後はアンケート対象地域を珠洲市や穴水町、能登町の奥能登地域の外国人住民にも拡大し、今後はそれらの結果に

独立行政法人国際協力機構
九州センター（JICA 九州）
2025 年 4 月 18 日

	基づき、ニーズを把握したうえで事業展開を実施し、外国人住民が母語で相談できる体制づくり、民生委員や老人クラブとの顔の見える関係づくりによる多文化防災を進めていきたいと考えている。 関連リンク：https://tabusapo.org/

【取材可能日時と場所】
記念式典概要
日時：2025 年 7 月 14 日（月）14 時～（予定）
場所：独立行政法人国際協力機構（JICA）本部　二番町センタービル（麹町）
主催：独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局
後援：経団連、経済同友会、青年会議所、日本商工会議所、全国地方新聞連合会

本式典においては各入賞者が登壇予定です。

■問い合せ先
取材いただける場合は、事前に下記までご連絡ください。

【本件に関する問い合わせ先】
JICA PR 事務局((株)イニシャル内)　担当：丸山・遠山・三好・土屋・乗鞍
TEL：03-5572-7334　FAX：03-5572-6065　MAIL：jica_pr@vector inc.co.jp

独立行政法人国際協力機構
九州センター（JICA 九州）
2025 年 4 月 18 日

【参考】
■JICA 海外協力隊について
JICA 海外協力隊は日本政府の ODA 予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する事業です。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。
その主な目的は、以下の 3 つです。
（１）開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与
（２）異文化社会における相互理解の深化と共生
（３）ボランティア経験の社会還元

■JICA 海外協力隊は 2025 年に 60 周年を迎えました
JICA 青年海外協力隊事務局では 2025 年を 60 周年記念イヤーと位置づけ、「世界と日本を変える力」をテーマに 1 年かけて周年事業を実施いたします。4 月には第 3 回 JICA 海外協力隊帰国隊員社会還元表彰の受賞者の発表、6 月 2 日には同受賞者によるピッチ形式のプレゼンテーションによる公開選考及び大賞の発表、11 月には海外協力隊 60 周年記念式典を予定しております。
※詳細は追ってご案内いたします。JICA 海外協力隊 60 周年に関連した情報については、以下のとおり 60 周年特設サイトを開設し、随時掲載していきます。
特設サイト：https://www.jica.go.jp/volunteer/60th/

60 周年記念ロゴ：

■独立行政法人国際協力機構（JICA）について
JICA は、開発途上国が直面する課題を解決するため、技術協力、有償資金協力、無償資金協力など日本の政府開発援助（ODA）を一元的に担う二国間援助の実施機関で、150 以上の国と地域で事業を展開しています。
国際社会の課題は日本とも密接に関係しています。国内外のパートナーと協力してそれらの解決に取り組み、世界の平和と繁栄、日本社会の更なる発展に貢献します。
詳しくは https://www.jica.go.jp/index.html をご覧ください。